

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

国際社会や地域社会において、グローバルな視点で物事を思考し、思考した中から最善のものを判断し、判断したものを発信できる人材を育成する学校
— 国際社会や地域社会において持続可能な開発のための目標（SDGs）2030 アジェンダを実践できる人材の育成 —

2 中期的目標

国際社会・地域社会で活躍する生徒の育成という本校の目標の実現をめざす。

1 確かな学力の育成及び希望進路の実現

(1) 基礎学力の着実な定着

- ・1日7時間授業を行うとともに、知識習得型授業と探究型授業をバランスよく組み合わせる。
- ・大学や研究機関との連携による学習、体験型学習を数多く実施することにより、学習に対する関心・意欲を高め、知識・スキルを定着させる。

(2) 専門分野における活用力・探究力の向上

- ・研究指定等を積極的に活用し、知識・技能を活用する力の向上を図り、質の高い研究が行えるよう指導する。
- ・研究者・企業関係者等との連携を進め、評価・助言を積極的に受ける。
- ・校内外研修、語学研修、国際教育、国際交流等に積極的に取り組む。
- ・論文をはじめとする様々な形態のプレゼンテーションを行う機会を増やし、質の向上を図る。

(3) 全ての生徒の希望進路の実現

- ・生徒一人ひとりの1～3年次の学力等の伸長記録である「生徒カルテ」（平成 27 年度作成）を活用する。その指標に基づき、生徒の学力や学校生活等に係る意識について把握し、指導・支援する。
- ・土曜日の補習・講習等を計画的かつ生徒のニーズにあうように実施する。
- ・大阪大学を中心とした国公立大学合格者数 100 人以上をめざす。

2 豊かな人間性の涵養

(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成

- ・部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導を行い、生徒の自己管理能力を高めるよう指導する。
- ・すべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導・支援する。特にホームルーム指導や人権学習において計画的に指導するとともに、生徒の状況を的確に把握し、指導方法の工夫改善に努める。
- ・ICT機器等を正しく活用できるよう、活用ルール（平成 27 年度作成）に基づき計画的に指導する。

(2) 共生・共助の精神の涵養

- ・卒業生との連携協力を強め、社会貢献に取り組む人々たちによる講演や交流を行う。
- ・千里フェスタに向けての協同的な研究により多様な仲間との価値の創造性の大切さを学習させる。

3 教員の指導力の向上

(1) 学習指導方法の工夫改善

- ・教材・資料・指導方法について教科において研究・交流を図り、統一・共有化を進める。
- ・タブレット端末を利用し学べるコンテンツの研究開発と充実を図る。

(2) 先進的な教育に取り組むための研究及び研修の充実

- ・学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、授業改善のための PDCA サイクルを的確に図る。
- ・授業アンケートを適切に活用し、指導と評価の一体化を図る。
- ・次期学習指導要領に則した教育課程の編成を研究する。

(3) 働き方改革への適切な取組み

- ・時間外労働の削減を図る。職員会議等で時間外労働の数値結果を連絡する。
- ・機能的・合理的な組織体制を構築する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価(評価指標欄内の「 」は学校教育自己診断の項目)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成及び希望進路の実現	<p>(1) 基礎学力の着実な定着</p> <p>(2) 専門分野における活用力・探究力の向上</p> <p>(3) 全ての生徒の希望進路の実現</p>	<p>(1) タブレット等の積極的な活用により授業の充実を図り、全ての生徒の学力の伸長をめざす。</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題研究(「探究」「科学探究」)を関係組織と連携し、専門分野における探究力を高める。 外部人材からの評価・助言を受け、課題研究指導プログラムの研究開発を伸展させる。 SSH及びSGH中間発表時等における両学科間の交流を図る。 校内外の研修及び国際交流教育の質向上と効率化を促進する。 生徒の様々な形態のプレゼンテーションを実施する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した総合的指導計画(学習指導・進路指導・生活指導等)、及び生徒ケア等を活用し、指導・支援する。 土曜日の補習・講習等について計画的でニーズにあうように校内体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「私は授業についていけている」80% (H30:74%) 「ICT機器を授業等でよく使う」90% (H30:85%) 「『探究』『科学探究』は知的好奇心を高める」80% (H30:74%) 校内研修満足度80% (H30:64%) 海外研修10回実施 校外プレゼンテーション参加数80人 (H30:73人) 国立大学合格者120人 (H30:92人) 海外大学進学希望者100%実現 「希望する進路を実現するための講習等が充実している」75% (H30:68%) 	
豊かな人間性の涵養	<p>(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成</p> <p>(2) 共生・共助の精神の涵養</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導する。家庭学習時間確保の把握と指導を行い、生徒の自己管理能力を高める。 タブレット等をルールに基づき正しく活用できるよう計画的に学習会を実施する。 研修の充実やスクールカウンセラーとの連携により、不安定な生徒のケアを図る。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導する。 HRや人権学習等を充実させ、人としての在り方生き方を学ぶ道徳教育を推進する。 社会貢献に取り組む卒業生や専門家による講演及び連携協力を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習する時間を確保できている」70%。(H30:65%) 「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会がある」85%。(H30:80%) 「千里高校に入学してよかったと思っている」80%。(H30:66%) 「悩みに応じてくれる先生がいる」65% (H30:62%) 「将来の進路や生き方について考える機会がある」80%。(H30:77%) 「人権について学ぶ機会がある」90% (H30:88%) 	
教員の指導力の向上	<p>(1) 学習指導方法の工夫改善</p> <p>(2) 先進的な教育に取り組むための研究及び研修の充実</p> <p>(3) 働き方改革への適切な取組み</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を利用し学べるコンテンツの研究開発を促進する 教科において指導方法・評価について、統一・共有を進める。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、授業改善のためのPDCAサイクルを的確に回す。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外労働の縮減を図る。職員会議等で時間外労働の数値結果を連絡する。 機能的・合理的な組織体制を構築し、ICT環境を充実させ、個人情報保護にも留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業で力をつけることができる」85% (H30:78%) 「学習の評価について納得できる」85% (H30:77%) 主体的、対話的な深い学びをさらに推進するために研究授業及び研究協議を12月に実施する。 時間外労働時間を1割削減する。(H30年度2月末6830時間) ICT活用及び組織改編による業務の合理化を図るとともに個人情報保護にも留意する。 	